

目的語としての 人称代名詞

★1 [→p48]でも触れましたが、本書では、一般に用いられる「補語」という用語に代えて「目的語」という用語を使用します。「目的語」という言葉のほうが文法的にイメージしやすいからです。したがって、ここでいう「目的語としての人称代名詞(目的語人称代名詞)」は一般に用いられる「補語人称代名詞」を指すこととなります。以後本書では、「補語人称代名詞」に代えて「目的語人称代名詞」という用語を用いることとします。

□017

1 | 直接目的語人称代名詞(「～を」)

- 1) 直接目的語人称代名詞とは動詞の直接目的語(**complemento diretto**)の働きをする人称代名詞です。動詞と目的語の間に前置詞を必要としないので「直接」目的語といいます。直接目的語は一般的には「～を」という意味になります(→ただし5. (1) [p84])。なお、直接目的語をとまなう動詞を他動詞、ともなわない動詞を自動詞といいます。これについての詳細は3章2. [→p90]を参照してください。
- 2) 通常は、動詞の活用形の直前に置きます。
- 3) 否定文の場合、non は目的語人称代名詞の前に置きます。

Paola (non)	mi	私を	conosce. * (知っている)
	ti	君を	
	lo	彼を、それを (m.sing.)	
	la / La	彼女を、それを (f.sing.) / あなたを	
	ci	私たちを	
	vi	君たちを、あなた方を	
	li	彼らを、それらを (m.pl.)	
le	彼女たちを、それらを (f.pl.)		

* conosce は動詞 conoscere (知っている)の直説法現在・3人称単数形です。

◆ Inviti Anna alla festa? – Sì, la invito.

君はアンナをパーティーに招待しますか? – はい、私は(彼女を)招待します。

⇒ invitare : 招待する

◆ Nessuno mi protegge. 誰も私を守ってくれない。

◀ nessuno は不定代名詞の1つです(→★8・不定代名詞その2 [p72])。

次は「もの」を受ける例です。

◆ Mangi lo yogurt? – Sì, lo mangio volentieri.

ヨーグルト食べますか? – はい、(それを)よろこんで食べます。

⇒ volentieri : よろこんで

◆ Devo comprare la pasta.

私はパスタを買わなければならない。

= La devo comprare. ① 私はそれを買わなければならない。

= Devo comprarla. ②

この例のように補助動詞の後の不定詞が目的語人称代名詞(直接でも間接でも)をとまなう場合、その人称代名詞は、補助動詞の前に置くか、あるいは不定詞の後ろに付けます。

不定詞の後ろに付ける場合は、不定詞の最後の母音 -e を落としたものに人称代名詞が接合して一体化しますが(②)、補助動詞の前に置くときは、人称代名詞は分離して独立した一語となります(①)。

- ◆ Questo cd è molto bello. Lo volete ascoltare? ①
= Volete ascoltarlo? ②

この CD はとてもいい。君たちはそれを聴きたいですか？

【参考】人称代名詞ではありませんが、場所を表す *ci* などの代名小詞(→ 11 章 [p159])にも上のルールがあてはまります。後述する再帰代名詞も同様です(→ 10 章 [p144])。

- ◆ Devi andarci subito. = Ci devi andare subito.
君はすぐにそこへ行かなければならない。

- ◆ Gli spaghetti al pomodoro, li mangio volentieri.

トマトソースのスパゲッティ、私はよろこんでいただきます。

◀このように、直接目的語を文頭に置いて、その後、代名詞を重複させるという表現方法があります。これで直接目的語が強調されます。⇒ *pomodoro (m.)* : トマト

- ◆ Sai a che ora arriva l'autobus? – No, non lo so.

バスが何時に来るか知ってる？ – いいえ、(そのことは)知りません。

◀後述しますが、この *lo* は、人称代名詞ではなく、中性代名詞と呼ばれるもので、性とは無関係に、前の文の内容を受けて「そのこと」という意味になります。
11 章 3. [→ p172]で詳しく説明します。

★8 不定代名詞(pronome indefinito) その2

018

nessuno (誰も～ない) ; *niente, nulla* (何も～ない) などの不定代名詞が動詞の前に置かれると、*non* がなくてもそれだけで否定の意味を表します。しかし、動詞の後にそれらが来る場合は、動詞の前に *non* を置く必要があります。

nessuno, niente, nulla はすべて単数形で用いられます。

- ◆ Nessuno mi capisce. 誰も私を理解してくれない。
- ◆ Niente è normale. 何一つまともなものはない。
- ◆ Non mi protegge nessuno. 誰も私を守ってくれない。

- ◆ Non c'è niente di bello. いいことは何もない。(→★4 (1)の例 [p55])
- ◆ Non c'è nulla da spiegare. 説明すべきことは何もない。
◀この *da* は義務を意味する前置詞です。

019

2 | 間接目的語人称代名詞(「～に」)

- 1) 間接目的語人称代名詞とは、動詞の間接目的語(*complemento indiretto*)の働きをする人称代名詞で、前置詞 *a* + 「人」(ときに動物)に置き換えることができ、一般的には「～に」という意味になります。
- 2) 通常は、動詞の前に置きます。
- 3) 否定文の場合、*non* は目的語人称代名詞の直前に置きます。

Paola (non)	mi	私に	<i>telefona. *</i> (電話する)
	ti	君に	
	gli	彼に	
	le / Le	彼女に / あなたに	
	ci	私たちに	
	vi	君たちに、あなた方に	
	gli **	彼らに、彼女たちに	

* *telefona* は動詞 *telefonare* (電話する)の直説法現在・3人称単数形です。

⇒ *telefonare a* + 人 : (人)に電話する

** 3人称複数形「彼らに、彼女たちに」には *gli* 以外に *loro* もありますが、最近の口語ではほとんど使いません。

- ◆ Ti do questo libro. この本を君にあげるよ。

⇒ *dare* ~ *a* + 人 : (人)に～をあげる

- ◆ Luciano non ci telefona. ルチアーノは私たちに電話をかけてこない。

(→ 5. (1) [p84])

再帰動詞 (verbo riflessivo)

1 | 再帰動詞とは

再帰動詞とは、主語が自分自身をその動作の目的語にする動詞をいい、辞書には、alzarsi「起きる」、chiamarsi「～という名前である」、divertirsi「楽しむ」のように -rsi で終わる形で掲載されています。

再帰代名詞 *si* (変化形: *mi, ti, si, ci, vi, si*) をともなうのが特徴です。3人称単数・複数形が、alzarsi のように辞書に掲載された形と同じ *si* であることに注意してください。

alzarsi	起きる
mi alzo	
ti alzi	
si alza	
ci alziamo	
vi alzate	
si alzano	

これは、再帰動詞 *alzarsi*「起きる」の直説法現在の活用形です。*alzarsi* を *alzare* + *si* と分解して考えてみましょう。*alzare* の活用形は通常の -are 動詞と同じです。その活用形の前に、再帰代名詞 *si* の変化形をそれぞれ付けければ *alzarsi* の活用形は出来上がります。再帰動詞の直説法現在の活用についてはあらためて説明します。(→ 3. [p148])

再帰代名詞は、直接目的語の機能を持つのが一般的ですが(→ 2. (1)(3))、間接目的語の機能を持つ場合(→ 2. (2)(3))や、直接・間接目的語の機能を持たない場合(→ 2. (4))もあります(→ 2. (4)は再帰動詞と別扱いされることもあります)。

042

2 | 再帰動詞の種類

(1) 本質的再帰動詞 (verbo riflessivo)

(→具体例は 3. 4. を参照のこと [p148 ~])

再帰代名詞が直接目的語の働きをし、それが主語自身である場合。

「自分自身を～する」と考えることができます。

alzarsi 起きる(自分自身を起こす = alzare sé stesso)

◀ sé stesso は「自分自身」という意味です。sé は si の強勢形です。*

nascondersi 隠れる(自分自身を隠す = nascondere sé stesso)

presentarsi 出席する、自己紹介をする

(自分自身を見せる、紹介する = presentare sé stesso)

lavarsi 身体を洗う(自分自身を洗う = lavare sé stesso)

vestirsi 服を着る(自分自身に服を着せる = vestire sé stesso)

* sé について

2章3. 人称代名詞の強勢形 [→ p75]においては触れませんでした。強勢形 *me, te, lui, lei, noi, voi, loro* と並んで、「自分自身」を表す再帰代名詞 *si* の強勢形 *sé* があります。*sé* は形容詞 *stesso* をともなって、「自分自身」という強調的なニュアンスを持つこととなります。

◆ *Voglio coltivare me stesso. Anche voi dovrete coltivare voi stessi.*

私は自分自身を鍛えたい。君たちも自分自身を鍛えるべきではなからうか。

⇒ coltivare : 鍛える、耕す

◀ この例で主語がたとえば *Maria* (女性)なら *sé stessa* となります。

dovreste は *dovere* の条件法現在形(2人称複数形)です。(→ 15章 [p199])

(2) 形式的再帰動詞 (verbo transitivo pronominale)

(→具体例は 3. 4. を参照のこと [p148 ~])

再帰代名詞が間接目的語の働き(a sé stesso (per sé stesso)「自分自身において」「自分自身のために」「自らの」)をし、直接目的語が別個に存在する場合。

comprarsi una macchina *

(自分のために車を買う = comprare una macchina per sé stesso)

prendersi le vacanze *

(自分のために休暇を取る = prendere le vacanze per sé stesso)

pulirsi i denti (自分の歯を磨く = pulire i propri denti) **

lavarsi le mani (自分の手を洗う = lavare le proprie mani) **

rompersi una gamba **

(自分の足を骨折する = rompere una propria gamba)

形式的再帰動詞においては、そのニュアンスという点で、*をつけた上の2例と、**をつけた下の3例を区別して考える必要があります。

*をつけた例文では、「自分自身において」「自分自身のために」という主語の感情や欲求がニュアンスとして出てきます。通常の動詞を用いて表現することで事足る内容(つまり comprare una macchina, prendere le vacanze でもかまわない)、あえて形式的再帰動詞の形にすることで、主語の強い意思がそこに表れることになるのです。例については 3. [→ p148 ~] を参照してください。

一方、**は、身体に備わっているものに関し、単に「自らの(歯、手、足)を~する」というニュアンスしか持ちません。

(3) 相互的再帰動詞 (verbo riflessivo reciproco)

(→具体例は 3. 4. を参照のこと [p148 ~])

再帰代名詞が直接目的語の働きをし、それが主語自身ではあるものの、主語が複数で、主語同士がお互いにその動作を「~し合う」という表現になる場合。したがって代名詞としては複数形の ci, vi, si しか存在しません。

vedersi (お互いに)会う

incontrarsi (お互いに)会う

salutarsi (お互いに)あいさつを交わす

odiarsi (お互いに)憎しみ合う

sentirsi (お互いに)電話で話す

再帰代名詞が間接目的語の働きをし、直接目的語は別個に存在して、主語同士がお互いにその動作を「~し合う」という表現になる場合があります。これは、相互的再帰動詞の働きをしますが、実質的には形式的再帰動詞の構造にほかなりません。

scambiarsi i regali (お互いに)プレゼントを交換する

◀主語同士がお互いに「交換する」わけですから、代名詞は複数形の ci, vi, si しか存在しませんが、「お互い」自身を交換するのではなく、「お互いのために」「プレゼント」を交換することになります。ci, vi, si は間接目的語であり、i regali が直接目的語ということです。

(4) 代名動詞 (verbo intransitivo pronominale)

(→具体例は 3. 4. を参照のこと [p148 ~])

再帰動詞と形は同じですが、この場合の再帰代名詞 mi, ti, si, ... は特にこれという機能を持たず、動詞の一部となっています。直接目的語、間接目的語の役割を果たしていないのです。したがって、代名動詞は再帰動詞と区別して論ぜられることもあります。

1) 前置詞 di や a をともなうことが多い、という特徴があります。

accorgersi di (～に気づく) dimenticare di (～を忘れる)

pentirsi di (～を後悔する) vergognarsi di (～を恥づかしがる)

ricordarsi di (～を覚えている) sorprendersi di (～に驚く)

decidersi a (～を決意する) divertirsi a (～を楽しむ)

2) イディオムのなものもあります。ne については 11 章 2. 5) [→ p170] を参照のこと。

andarsene (立ち去る) ritornarsene (引き返す)

starsene (じっとしている)

16 条件法過去 (condizionale passato)

1 条件法過去の作り方と活用形

【作り方】

助動詞 avere または essere の条件法現在 + 過去分詞

【活用】

guardare	andare
avrei guardato	sarei andato (a)
avresti guardato	saresti andato (a)
avrebbe guardato	sarebbe andato (a)
avremmo guardato	saremmo andati (e)
avreste guardato	sareste andati (e)
avrebbero guardato	sarebbero andati (e)

avere, essere の区別は近過去の場合と同じです。

2 条件法過去の用法

条件法過去も、以下のように、その働き・用法は多岐にわたります。

- 過去において実際には実現しなかったことを表します。
15章 条件法現在 2. 1) 6) 7) 8) [→p202～204]も参照してください。
 - ◆ Ti avrei prestato i libri che ti interessavano...
君が興味を持っていた本を僕が君に貸してあげたのになあ。
 - ◆ Con un sacco di soldi avrei comprato una macchina straniera...
たくさん金があれば外車を買ったんだけどなあ。
◀条件法現在の場合と違い、外車購入は不可能であることを表現しています。
 - ◆ Avremmo dovuto visitare Pisa, ma non abbiamo avuto tempo.
私たちはピサを見学するはずだったが、時間がなかった。(だからピサに行けなかった)
 - ◆ Marta avrebbe dovuto spedire una e-mail, ma non ci è riuscita.
マルタはEメールを送るつもりだったのだが、送れなかった。
◀ciは11章1.2) [→p160]参照。
 - ◆ Antonio doveva restare a casa, altrimenti sarebbe uscito con la moto.
アントーニオは家にいなければならなかった。でなければバイクで外出しただろうに。
◀条件法現在の場合 (Antonio deve restare in casa, altrimenti uscirebbe con la moto. 「アントーニオは家にいないといけない。でなければバイクで外出するのに」)と比較してください。
restare a casa, restare in casa ともにOKです。
 - ◆ Ieri sarei potuto venire a casa tua, ma sono stato molto male.
昨日君の家に行くことができたのだが、体調がとても悪かった。(だから行けなかった)

2) 推測・うわさ(報道) (→ 15章 2.4) [p203])

- ◆ Secondo fonti non ufficiali, l'oggetto volante precipitato in Giappone la settimana scorsa sarebbe stato un UFO.

非公式の情報源によると、先週日本に落下した飛行物体は UFO だったらしい。

⇒ fonte (f.) : 源、水源 ufficiale : 公式の oggetto (m.) : 物体
precipitare : 墜落する

- ◆ Secondo un mio amico, Gianni e Nadia si sarebbero già separati.

私の友人の話では、ジャンニとナーディアはもう別れたらしい。

⇒ separarsi : (お互いに)別居する

3) 不確かさ (→ 15章 2.5) [p203])

- ◆ Non so se Giacomo avrebbe accettato la tua proposta.

ジャコモが君の提案を受け入れたかどうか、私にはわからない。

4) 現在や未来において実現しえないことも表します。ただし、その前後には内容を補足する文を付け加える必要があるでしょう。

- ◆ Stasera sarei andato con piacere al cinema, ma devo andare a cena con i miei.

今夜はよるこんで映画を観に行きたいところだったのですが、両親と夕食に行かなければなりません。

◀条件法現在 *andrei* を使うより実現性が極めて低い表現といえます。

- ◆ Domani avrei mangiato volentieri con te, ma devo fare un viaggio d'affari.
- 明日は是非、君と食事をしたかったのだけれど、出張しなければならないんだ。

- ◆ Oggi ho già un impegno, altrimenti sarei uscito a fare un giro in macchina con te.

今日はすでに約束が入っているんだ。でなければ君とドライブに出かけたのだけれど。

⇒ impegno (m.) : 約束、用事

5) 過去未来(過去のある時点から見た未来) (→ 19章 時制の一致 1. [p243 ~])

以下の例のように、主節の動詞が直説法の場合、それがいかなる過去形であっても、その時点より後に起こるであろう内容は、通常、条件法過去で表現することになります(→主節の動詞が条件法である場合については 18章 3.1) (B) [p239])。

条件法で表現された内容が結果的に実現したかどうかは重要ではありません。条件法で表現された内容が現在より以前の事柄であれば、すでに結果は出ているはずですから、実現したか実現しなかったかのどちらかで確定しているでしょうし、条件法で表現された内容が現在よりも先の事柄であれば実現するかどうかは未だ不明ということになります。しかしいづれにしても、条件法で表現された内容の成否は文面からは判断できないわけです。

- ◆ Rodrigo diceva che avrebbe comprato una macchina.

ロドリゴは車を買うだろうと言っていた。

- ◆ Rita ha detto che si sarebbe sposata con un ragazzo spagnolo.

リータはスペイン人の彼氏と結婚するだろうと言った。

- ◆ Ero sicuro che lui avrebbe approvato la mia opinione.

私は、彼が私の意見に賛同すると確信していた。 ⇒ approvare : 同意する

- ◆ Pensavo che Emma avrebbe vinto il concorso.

私はエンマがコンクールで優勝するであろうと思っていた。

- ◆ Speravo che mia nonna sarebbe venuta il più presto possibile.

私は祖母ができるだけ早く来てくれることを願っていた。

少しむずかしい話になりますが、主節の動詞が直説法近過去であっても、それが現在に近接する過去(「つい今しがた」というニュアンス)である場合(*passato legato al presente*)は、主節の動詞が現在形である場合と同じと考えます。したがって、その時点よりも後に起こるであろう事柄は、その確実性、実現可能性の有無により、直説法未来形①、条件法現在形②、条件法過去形③で表すことになります。

これに関しては 26章 直接話法と間接話法 2. (1) [→ p316]も参照してください。

接続法半過去 (congiuntivo imperfetto) ・ 接続法大過去 (congiuntivo trapassato)

□074

1 | 接続法半過去の活用形

guardare	prendere	sentire	finire	avere	essere
guardassi	prendessi	sentissi	finissi	avessi	fossi
guardassi	prendessi	sentissi	finissi	avessi	fossi
guardasse	prendesse	sentisse	finisse	avesse	fosse
guardassimo	prendessimo	sentissimo	finissimo	avessimo	fossimo
guardaste	prendeste	sentiste	finiste	aveste	foste
guardassero	prendessero	sentissero	finissero	avessero	fossero

andare	dare	fare	stare	dire	bere
andassi	dessi	facessi	stessi	dicessi	bevessi
andassi	dessi	facessi	stessi	dicessi	bevessi
andasse	desse	facesse	stesse	dicesse	bevesse
andassimo	dessimo	facessimo	stessimo	dicessimo	bevessimo
andaste	deste	faceste	steste	diceste	beveste
andassero	dessero	facessero	stessero	dicessero	bevessero

◎ 1人称・2人称単数は同じ形です。主語代名詞 *io, tu* を付けて区別することが多いです。

◎ 3人称複数形は、3人称単数形の末尾に *-ro* を付ければ出来上がりです。

◎ *dare* と *stare* は *a* が *e* に変わるので注意してください。

◎ 直説法半過去の場合と同様、*bere, dire, fare* は、それぞれ *bevere, dicere, facere* を原形と考えて変化させます。

◎ なお、*trarre, porre, condurre* の接続法半過去の1人称単数形は、それぞれ、*traessi, ponessi, conducessi* となります。

- ◆ Credevo che lui avesse ragione.
彼の言うことは正しいと私は思っていた。
- ◆ Non era sicuro che loro fossero arrabbiati.
彼らが怒っているというのは確かではなかった。

2 | 接続法大過去の作り方と活用形

[作り方]

助動詞 *avere* または *essere* の接続法半過去 + 過去分詞

[活用]

guardare	andare
avessi guardato	fossi andato (a)
avessi guardato	fossi andato (a)
avesse guardato	fosse andato (a)
avessimo guardato	fossimo andati (e)
aveste guardato	foste andati (e)
avessero guardato	fossero andati (e)

avere, essere の区別は近過去の場合と同じです。

- ◆ Credevo che lei fosse già arrivata all'aeroporto.
私は彼女がすでに空港に到着したと思っていた。
- ◆ Non era sicuro che lui avesse avuto un incidente.
彼が事故にあったというのは確かではなかった。

3 | 接続法半過去・大過去の用法

(→ 19章 時制の一致 1. (2) 2) 3) 4) [p245, 246])

1) 基本的には接続法現在・過去の場合と同じで、従属節の中で用いられるのが一般的です。

個々の具体的な用法は、前述の 17 章 接続法現在・過去(→ 5. [p216 以下])を参照してください。

ただし、接続法半過去・大過去形は、仮定文の従属節の中でも用いる、という違いはあります。

(A) 主節の動詞が直説法の近過去・半過去・大過去・遠過去のとき

(→ 19章 1. (2) 2) [p245])

① 接続法半過去は従属節の中で主節と同時の事柄を表します。

接続法半過去形は細い単線で示しておきます。

u>

◆ Pensavo che lui comprasse una macchina nuova.

私は彼が新しい車を買うと思っていた。

◆ Credevo che lui venisse da solo.

私は彼がひとりで来ると思っていた。

◆ Non ero certo che lui avesse torto.

私は、彼が間違っているとの確信を持っていなかった。

◆ Non era giusto che la ditta trasferisse Franco all'ufficio in Spagna.

◀ 非人称表現

会社がフランコをスペインの事務所に転勤させるのは適切ではなかった。

◆ Bisognava che ci mettessimo d'accordo con loro.

我々は彼らと妥協する必要があった。 ◀ 非人称表現(非人称動詞)

◆ Era possibile che Sergio fosse licenziato subito. ◀ 非人称表現

セルジョがすぐに首になることは大いにありえた。

◆ Volevo che tu mi chiedessi perdono per avermi offeso.

私を侮辱したことに対し君が私に謝罪してほしかった。(→ 25 章 3. [p296])

◆ Non era che non mi piacesse nuotare, però ho preferito restare sulla spiaggia. ◀ 非人称表現

私は水泳が嫌いというわけではなかったが、砂浜にいるほうがよかった。

◆ Giancarlo continuava a bere il vino nonostante avesse mal di testa.

ジャンカルロは頭が痛いにもかかわらずワインを飲み続けていた。

⇒ avere mal di ~ : ~が痛む testa (f.) : 頭

◆ Ho sostenuto economicamente Mario perché lui iniziasse una nuova impresa.

マリオが新しい事業を立ち上げるために私は彼を経済的に支援した。

◆ Dovevo finire i compiti prima che i miei genitori tornassero a casa.

両親が家に帰って来る前に、僕は宿題を仕上げなければならなかった。

◆ Lui era il politico più potente che io conoscessi.

彼は私が知る最も力のある政治家だった。

(注) 17 章 接続法現在・過去で説明したとおり、次のようなケースは現実性・客観性がありますから従属節では直説法をとります。(→ 19 章 1. (1) [p244])

◆ Ero sicuro che lei aveva torto.

私は彼女が間違っていると確信していた。

◆ Sapevo che Paolo frequentava quella scuola.

パオロがあの学校に通っていることを僕は知っていた。

② 接続法大過去は従属節の中で主節より以前の事柄を表します。

接続法大過去形は 2 重線で示しておきます。

◆ Pensavo che lui avesse comprato una macchina nuova.

私は彼が新しい車を買ったと思っていた。

◆ Credevo che lui fosse venuto da solo.

私は彼がひとりで来たと思っていた。

◆ Non ero certo che lui avesse avuto tempo di studiare.

勉強する時間が彼にあったとの確信を私は持っていなかった。

受動態と受身の si、
非人称の si

1 | 動詞の形態

文の主語が動作主(agente)となる場合の動詞の形態を能動態(forma attiva)、文の主語が他から動作を受ける場合の動詞の形態を受動態(forma passiva)といいます(いわゆる「受身」)。

受動態(受身)は他動詞を用いてしか作れません。なぜなら他動詞には直接目的語があり、それが受動態の文の主語になるからです。自動詞には直接目的語がありませんから、受動態の作りようがないわけです。

◁082

2 | 受動態の種類

(1) essere の活用形 + 他動詞の過去分詞(語尾は主語の性・数に一致)
+ [da + 動作主]

- すべての法(modo)と時制(単純・複合)(tempo semplice / tempo composto)で用いられます。
- 動作主は、文脈から自明であったり「不特定多数の人」である場合には表現されないこともあります。da を [] 付きで表示したのはそういう理由によります。

●能動態から受動態への変換

(例1) ◆ Il professore loda lo studente. (能動態)

先生はその生徒を褒める。

⇒ lodare : 褒める

◀ 文の主語(先生)が動作主になっています。

これを受動態(受身)の文に変換すると、

◆ Lo studente è lodato dal professore. となります。

その生徒は先生に褒められる。

◀ 文の主語(生徒)が、「他の人」すなわち動作主(先生)から「褒める」という動作を受ける、つまり「褒められる」わけです。

(例2) ◆ I poliziotti arrestano i ladri. (能動態)

警察官は泥棒を逮捕する。

⇒ arrestare : 逮捕する

これを受動態(受身)の文に変換すると、

◆ I ladri sono arrestati dai poliziotti.

泥棒は警察官に逮捕される。

例2の文の動詞 arrestare の法や時制を変えてみるとその受動態はどうなるか、単純時制の場合と複合時制の場合に分けて考えてみましょう。

<単純時制> 動詞の活用形で形成される時制

<複合時制> 助動詞 avere / essere の活用形 + 過去分詞で形成される時制

<単純時制>

◆ I ladri sono arrestati dai poliziotti. [直説法現在] 「される」
泥棒は警察官に逮捕される。

<u>erano</u> arrestati	[直説法半過去]	「されていた」
<u>saranno</u> arrestati	[直説法未来]	「されるだろう」
<u>furono</u> arrestati	[直説法遠過去]	「された」
<u>sarebbero</u> arrestati	[条件法現在]	「されるかもしれない」
<u>siano</u> arrestati	[接続法現在]	「される」
<u>fossero</u> arrestati	[接続法半過去]	「されていた」

<複合時制>

- ◆ I ladri sono stati arrestati dai poliziotti. [直説法近過去] 「された」
泥棒は警察官に逮捕された。
- erano stati arrestati [直説法大過去]
「(すでに)されていた」
- saranno stati arrestati [直説法先立未来]
「(その頃には)されているだろう」
- furono stati arrestati [直説法先立過去]
「(すでに)されていた」
- sarebbero stati arrestati [条件法過去]
「(その頃には)されていたかもしれない / (いずれ)されるだろう」
- siano stati arrestati [接続法過去]
「された」
- fossero stati arrestati [接続法大過去]
「(すでに)されていた」

複合時制の受動態では、essere の過去分詞 stato の語尾と他動詞の過去分詞の語尾の両方を主語の性と数(この場合なら ladri)に合わせて変化させなければなりません。

(2) venire の活用形 + 他動詞の過去分詞(語尾は主語の性・数に一致)
+ [da + 動作主]

essere の代わりに venire を使って受動態を作ることもできます。

過去分詞は、状態を表す形容詞としてもよく用いられますから(→ 23 章(5) [p288])、《essere の活用形 + 他動詞の過去分詞》で受動態を作った場合、状態を表す形容詞との区別が不明確になることがあります。そこで過去分詞が、状態を表す形容詞でなく、受動態であることを明確にするために、essere の代わりに venire を用いることがあるのです。

1) 動作主は表現されないことが少なくありません。

- ◆ La porta viene chiusa alle otto. 門は 8 時に閉められる。<受身(動作)>
◀ venire を使うと「閉められる」という受身的な動作であることが明確になります。
- ◆ La porta è chiusa alle otto. 門は 8 時に閉められる(閉まっている)。
<受身(動作)>もしくは<状態>
◀ essere だと「閉まっている」という状態を表しているようにもとれます。

2) venire は単純時制においてのみ用いられ、複合時制では用いられません。

<単純時制> 次のように表現できます。

- ◆ I ladri sono arrestati dai poliziotti. [直説法現在]
↓ 泥棒は警察官に逮捕される。
- ◆ I ladri vengono arrestati dai poliziotti.

<u>erano</u> arrestati	<u>saranno</u> arrestati	<u>furono</u> arrestati
↓ [直説法半過去]	↓ [直説法未来]	↓ [直説法遠過去]
<u>venivano</u> arrestati	<u>verranno</u> arrestati	<u>vennero</u> arrestati
<u>sarebbero</u> arrestati	<u>siano</u> arrestati	<u>fossero</u> arrestati
↓ [条件法現在]	↓ [接続法現在]	↓ [接続法半過去]
<u>verrebbero</u> arrestati	<u>vengano</u> arrestati	<u>venissero</u> arrestati

<複合時制> venire を使って表現することはできません。(1)の形式に従い、essere の活用形を用いて表現します。

I ladri <u>sono stati</u> arrestati dai poliziotti.	[直説法近過去]
<u>erano stati</u> arrestati	[直説法大過去]
<u>saranno stati</u> arrestati	[直説法先立未来]
<u>furono stati</u> arrestati	[直説法先立過去]
<u>sarebbero stati</u> arrestati	[条件法過去]
<u>siano stati</u> arrestati	[接続法過去]
<u>fossero stati</u> arrestati	[接続法大過去]